

2

[千葉大]

$z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$ (i は虚数単位) とおく。

- (1) $z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6$ を求めよ。
- (2) $\alpha = z + z^2 + z^4$ とするとき, $\alpha + \bar{\alpha}$, $\alpha \bar{\alpha}$ および α を求めよ。ただし, $\bar{\alpha}$ は α の共役複素数である。
- (3) $(1-z)(1-z^2)(1-z^3)(1-z^4)(1-z^5)(1-z^6)$ を求めよ。

3

[東北大]

多項式 $P(x)$ を、 $P(x) = \frac{(x+i)^7 - (x-i)^7}{2i}$ により定める。ただし、 i は虚数単位とする。

以下の問いに答えよ。

(1) $P(x) = a_0x^7 + a_1x^6 + a_2x^5 + a_3x^4 + a_4x^3 + a_5x^2 + a_6x + a_7$ とするとき、係数 a_0, \dots, a_7 をすべて求めよ。

(2) $0 < \theta < \pi$ に対して、 $P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta}$ が成り立つことを示せ。

(3) (1)で求めた a_1, a_3, a_5, a_7 を用いて、多項式 $Q(x) = a_1x^3 + a_3x^2 + a_5x + a_7$ を考える。 $\theta = \frac{\pi}{7}$ として、 $k=1, 2, 3$ について、 $x_k = \frac{\cos^2 k\theta}{\sin^2 k\theta}$ とおく。このとき、 $Q(x_k) = 0$ が成り立つことを示し、 $x_1 + x_2 + x_3$ の値を求めよ。

4

[東京大]

z を複素数とする。複素数平面上の 3 点 $A(1)$, $B(z)$, $C(z^2)$ が鋭角三角形をなすような z の範囲を求め, 図示せよ。

5

[広島大]

複素数平面上を、点 P が次のように移動する。

- 時刻 0 では、 P は原点にいる。時刻 1 まで、 P は実軸の正の方向に速さ 1 で移動する。移動後の P の位置を $Q_1(z_1)$ とすると、 $z_1 = 1$ である。
- 時刻 1 に P は $Q_1(z_1)$ において進行方向を $\frac{\pi}{4}$ 回転し、時刻 2 までその方向に速さ $\frac{1}{\sqrt{2}}$ で移動する。移動後の P の位置を $Q_2(z_2)$ とすると、 $z_2 = \frac{3+i}{2}$ である。
- 以下同様に、時刻 n に P は $Q_n(z_n)$ において進行方向を $\frac{\pi}{4}$ 回転し、時刻 $n+1$ までその方向に速さ $\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n$ で移動する。移動後の P の位置を $Q_{n+1}(z_{n+1})$ とする。ただし n は自然数である。

$\alpha = \frac{1+i}{2}$ として、次の問いに答えよ。

- z_3, z_4 を求めよ。
- z_n を α, n を用いて表せ。
- P が $Q_1(z_1), Q_2(z_2), \dots$ と移動するとき、 P はある点 $Q(w)$ に限りなく近づく。 w を求めよ。
- z_n の実部が(3)で求めた w の実部より大きくなるようなすべての n を求めよ。

6

[筑波大]

複素数平面上を動く点 z を考える。次の問いに答えよ。

- (1) 等式 $|z-1|=|z+1|$ を満たす点 z の全体は虚軸であることを示せ。
- (2) 点 z が原点を除いた虚軸上を動くとき、 $w = \frac{z+1}{z}$ が描く図形は直線から 1 点を除いたものとなる。この図形を描け。
- (3) a を正の実数とする。点 z が虚軸上を動くとき、 $w = \frac{z+1}{z-a}$ が描く図形は円から 1 点を除いたものとなる。この円の中心と半径を求めよ。

2

[千葉大]

- (1) $z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$ に対して, $z^7 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$ となり,

$$z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6 = \frac{z(z^6 - 1)}{z - 1} = \frac{z^7 - z}{z - 1} = \frac{1 - z}{z - 1} = -1$$

- (2) $\alpha = z + z^2 + z^4$ とするとき, $\bar{\alpha} = \bar{z} + \bar{z}^2 + \bar{z}^4 = z^6 + z^5 + z^3$

$$\alpha + \bar{\alpha} = z + z^2 + z^4 + z^6 + z^5 + z^3 = -1$$

$$\alpha \bar{\alpha} = (z + z^2 + z^4)(z^6 + z^5 + z^3)$$

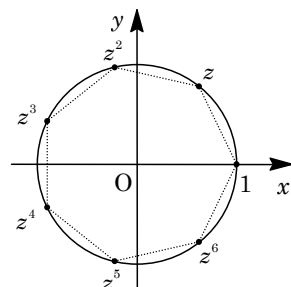
$$= z^7 + z^6 + z^4 + z^8 + z^7 + z^5 + z^{10} + z^9 + z^7$$

$$= 3 + z^6 + z^4 + z + z^5 + z^3 + z^2$$

$$= 3 - 1 = 2$$

よって, $\alpha, \bar{\alpha}$ は 2 次方程式 $x^2 + x + 2 = 0$ の解より,

$$x = \frac{-1 \pm \sqrt{7}i}{2}$$



そして, α の虚部は $\bar{\alpha}$ の虚部より大きいので, $\alpha = \frac{-1 + \sqrt{7}i}{2}$ である。

- (3) $x^7 = 1$ の解は, $x = 1, z, z^2, z^3, z^4, z^5, z^6$ より,

$$x^7 - 1 = (x - 1)(x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6)$$

そして, $x^7 - 1 = (x - 1)(x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$ より,

$$x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$$

$$= (x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6) \cdots \cdots (*)$$

(*)に $x = 1$ を代入すると,

$$(1 - z)(1 - z^2)(1 - z^3)(1 - z^4)(1 - z^5)(1 - z^6) = 7$$

[解 説]

1 の n 乗根に関する超有名問題です。解答例に示した図がすべてと言っても構わない内容です。

3

[東北大]

$$(1) \quad P(x) = \frac{(x+i)^7 - (x-i)^7}{2i} = \frac{2({}_7C_1x^6i + {}_7C_3x^4i^3 + {}_7C_5x^2i^5 + i^7)}{2i}$$

$$= \frac{7ix^6 - 35ix^4 + 21ix^2 - i}{i} = 7x^6 - 35x^4 + 21x^2 - 1$$

ここで, $P(x) = a_0x^7 + a_1x^6 + a_2x^5 + a_3x^4 + a_4x^3 + a_5x^2 + a_6x + a_7$ から,

$$a_0 = a_2 = a_4 = a_6 = 0, \quad a_1 = 7, \quad a_3 = -35, \quad a_5 = 21, \quad a_7 = -1$$

(2) ド・モアブルの定理を用いると,

$$P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{1}{2i} \left\{ \left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta} + i\right)^7 - \left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta} - i\right)^7 \right\}$$

$$= \frac{1}{2i \sin^7\theta} \{ (\cos\theta + i \sin\theta)^7 - (\cos\theta - i \sin\theta)^7 \}$$

$$= \frac{1}{2i \sin^7\theta} \{ (\cos 7\theta + i \sin 7\theta) - (\cos 7\theta - i \sin 7\theta) \}$$

$$= \frac{2i \sin 7\theta}{2i \sin^7\theta} = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta} \dots\dots\dots (*)$$

(3) $P(x) = a_1x^6 + a_3x^4 + a_5x^2 + a_7$, $Q(x) = a_1x^3 + a_3x^2 + a_5x + a_7$ より, $x > 0$ で,

$$Q(x) = P(\sqrt{x})$$

さて, $\theta = \frac{\pi}{7}$ のとき $\frac{\cos\theta}{\sin\theta} > 0$, $\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta} > 0$, $\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta} > 0$ から, (*)を用いて,

$$Q(x_1) = Q\left(\frac{\cos^2\theta}{\sin^2\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta} = \frac{\sin \pi}{\sin^7\theta} = 0$$

$$Q(x_2) = Q\left(\frac{\cos^2 2\theta}{\sin^2 2\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta}\right) = \frac{\sin 14\theta}{\sin^7 2\theta} = \frac{\sin 2\pi}{\sin^7 2\theta} = 0$$

$$Q(x_3) = Q\left(\frac{\cos^2 3\theta}{\sin^2 3\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta}\right) = \frac{\sin 21\theta}{\sin^7 3\theta} = \frac{\sin 3\pi}{\sin^7 3\theta} = 0$$

さらに, $x_1 = \frac{1}{\tan^2 \frac{\pi}{7}}$, $x_2 = \frac{1}{\tan^2 \frac{2\pi}{7}}$, $x_3 = \frac{1}{\tan^2 \frac{3\pi}{7}}$ なので, x_1, x_2, x_3 は互いに

異なる。よって, x_1, x_2, x_3 は 3 次方程式 $Q(x) = 0$ の異なる 3 つの解となり,

$$x_1 + x_2 + x_3 = -\frac{a_3}{a_1} = 5$$

[解 説]

一見, 複素数の難問という構成ですが, 細かな誘導のため, それに従えば最後の結論まで導けるようになっていきます。ただ, いろいろな定理が絡んでいますが。

4

[東京大]

3 点 $A(1)$, $B(z)$, $C(z^2)$ に対し, $\triangle ABC$ は鋭角三角形より, まず $z \neq 1$ かつ $z^2 \neq z$ かつ $z^2 \neq 1$ より,

$$z \neq 0, z \neq \pm 1$$

さて, $\angle CAB < \frac{\pi}{2}$ から, $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z^2 - 1}{z - 1} < \frac{\pi}{2}$ となり,

$$-\frac{\pi}{2} < \arg(z + 1) < \frac{\pi}{2}, -\frac{\pi}{2} < \arg\{z - (-1)\} < \frac{\pi}{2}$$

すると, z は点 -1 を通り実軸に垂直な直線の右側にある。

次に, $\angle ABC < \frac{\pi}{2}$ から, $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z^2 - z}{1 - z^2} < \frac{\pi}{2}$ となり, $-\frac{\pi}{2} < \arg(-z) < \frac{\pi}{2}$

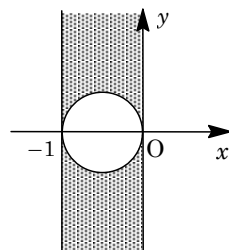
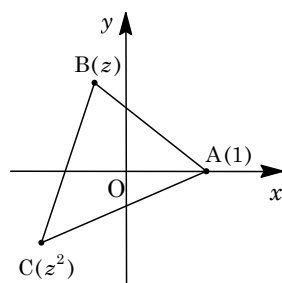
すると, $-z$ は虚軸の右側にあるので, z は虚軸の左側にある。

さらに, $\angle BCA < \frac{\pi}{2}$ から, $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z - z^2}{1 - z^2} < \frac{\pi}{2}$ となり,

$$-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z}{1 + z} < \frac{\pi}{2}, -\frac{\pi}{2} < \arg \frac{0 - z}{-1 - z} < \frac{\pi}{2}$$

すると, z は原点と点 -1 を直径とする円の外部にある。

以上より, z の存在範囲は右図の網点部となる。ただし, 境界線は含まない。



[解 説]

複素数平面についての問題です。鋭角三角形という条件を, 偏角の言葉に翻訳して処理をしました。なお, 余弦定理を利用する方法も考えられます。

5

[広島大]

(1) $\alpha = \frac{1+i}{2} = \frac{1}{\sqrt{2}}\left(\cos\frac{\pi}{4} + i\sin\frac{\pi}{4}\right)$ なので、点 αz は点 z を

原点回りに $\frac{\pi}{4}$ 回転し、原点との距離 $\frac{1}{\sqrt{2}}$ 倍した点である。

すると、与えられた条件から、

$$z_{n+2} - z_{n+1} = \alpha(z_{n+1} - z_n) \cdots \cdots (*)$$

$$z_3 = z_2 + \alpha(z_2 - z_1) = \frac{3+i}{2} + \frac{1+i}{2} \cdot \frac{1+i}{2}$$

$$= \frac{3+i}{2} + \frac{i}{2} = \frac{3+2i}{2}$$

$$z_4 = z_3 + \alpha(z_3 - z_2) = \frac{3+2i}{2} + \frac{1+i}{2} \cdot \frac{i}{2} = \frac{3+2i}{2} + \frac{-1+i}{4} = \frac{5+5i}{4}$$

(2) (*)より、 $z_{n+1} - z_n = (z_2 - z_1)\alpha^{n-1} = \frac{1+i}{2}\alpha^{n-1} = \alpha^n$ となり、 $n \geq 2$ で、

$$z_n = z_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \alpha^k = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \alpha^k = \sum_{k=0}^{n-1} \alpha^k = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha}$$

$n=1$ のときも成立するので、 $z_n = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha}$ である。

(3) $n \rightarrow \infty$ のとき $|\alpha^n| = |\alpha|^n = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \rightarrow 0$ より、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \alpha^n = 0$ となり、

$$w = \lim_{n \rightarrow \infty} z_n = \frac{1}{1-\alpha} = \frac{2}{1-i} = 1+i$$

(4) (2)より、 $z_n = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha} = (1+i)(1-\alpha^n) = (1+i)\left\{1 - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \left(\cos\frac{n}{4}\pi + i\sin\frac{n}{4}\pi\right)\right\}$

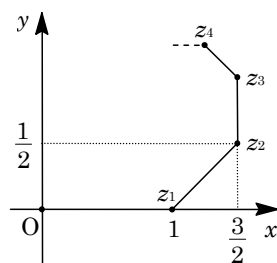
ここで、 z_n の実部が w の実部 1 より大きくなることより、

$$1 - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \cos\frac{n}{4}\pi + \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \sin\frac{n}{4}\pi > 1, \quad \sin\frac{n}{4}\pi - \cos\frac{n}{4}\pi > 0$$

すると、 $\sqrt{2}\sin\left(\frac{n}{4} - \frac{1}{4}\right)\pi > 0$ となるので、 k を 0 以上の整数として、

$$2k\pi < \left(\frac{n}{4} - \frac{1}{4}\right)\pi < (2k+1)\pi, \quad 8k+1 < n < 8k+5$$

よって、 $n = 8k+2, 8k+3, 8k+4$ である



[解説]

複素数平面上の点の移動を題材にした頻出問題です。現行課程で復活し、日も浅いためなのか、問題文の説明が度を超えた丁寧さです。

6

[筑波大]

- (1) $|z-1|=|z+1|$ ……①に対して、左辺は点 z と点 1 との距離、右辺は点 z と点 -1 との距離を表す。

これより、①を満たす点 z の全体は、点 1 と点 -1 を結ぶ線分の垂直二等分線、すなわち虚軸となる。

- (2) $w = \frac{z+1}{z}$ ($z \neq 0$) より、 $wz = z+1$ となり、 $(w-1)z = 1$ ……②

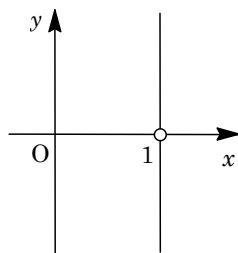
ここで、 $w=1$ とすると②は成立しないので、 $w \neq 1$ で $z = \frac{1}{w-1}$ ……③

③を①に代入すると、 $|\frac{1}{w-1}-1|=|\frac{1}{w-1}+1|$ となり、 $|\frac{2-w}{w-1}|=|\frac{w}{w-1}|$ から、

$$\frac{|2-w|}{|w-1|} = \frac{|w|}{|w-1|}, \quad |2-w|=|w|$$

すると、点 z が原点を除いた虚軸上を動くとき、点 w は点 2 と点 0 を結ぶ線分の垂直二等分線、すなわち点 1 を通り実軸に垂直な直線上を動く。ただし $w \neq 1$ から点 1 は除く。

図示すると、右図のようになる。



- (3) $a > 0$ で $w = \frac{z+1}{z-a}$ より、 $w(z-a) = z+1$ となり、 $(w-1)z = aw+1$ ……④

ここで、 $w=1$ とすると④は成立しないので、 $w \neq 1$ で $z = \frac{aw+1}{w-1}$ ……⑤

⑤を①に代入すると、 $|\frac{aw+1}{w-1}-1|=|\frac{aw+1}{w-1}+1|$ となり、

$$|\frac{(a-1)w+2}{w-1}| = |\frac{(a+1)w}{w-1}|, \quad |(a-1)w+2| = |(a+1)w|$$

両辺を 2 乗して、 $|(a-1)w+2|^2 = (a+1)^2 |w|^2$ より、

$$\{(a-1)w+2\}\{(a-1)\bar{w}+2\} = (a+1)^2 w\bar{w}$$

$$4aw\bar{w} - 2(a-1)w - 2(a-1)\bar{w} = 4, \quad w\bar{w} - \frac{a-1}{2a}w - \frac{a-1}{2a}\bar{w} = \frac{1}{a} \dots\dots\dots ⑥$$

⑥より、 $(w - \frac{a-1}{2a})(\bar{w} - \frac{a-1}{2a}) = \frac{1}{a} + \frac{(a-1)^2}{4a^2}$ となり、

$$|w - \frac{a-1}{2a}|^2 = \frac{(a+1)^2}{4a^2}, \quad |w - \frac{a-1}{2a}| = \frac{a+1}{2a}$$

よって、点 z が虚軸上を動くとき、点 w は中心 $\frac{a-1}{2a}$ で半径 $\frac{a+1}{2a}$ の円を描く。ただし、 $w \neq 1$ から点 1 は除く。

[解 説]

複素数平面上の変換を問う問題です。(1)において、まず①を変形して、 $z + \bar{z} = 0$ という関係を導き、この式をもとに(2)、(3)を解くという方法もあります。